



1999年9月22日

通院ボランティア通信 **【のどばたNo.3】**

全腎協事務局作成



★ホームページに載りましたあ★

全腎協のホームページの中に、通院送迎ボランティア事業のページを作りました。送迎ボランティア団体の連絡先や活動状況をご紹介しますので、みなさまのところへ問合せがあるかもしれません（ただいま更新中。次回、出力したものをお届けします）。ぜひ一度ご覧ください。

今月は、ホームページ用の情報をいただいた団体のうち、2団体を詳しくご紹介しました。紙面の関係上、毎月2～3団体のご紹介になるかと思いますが、いただいた情報を掲載し、活動状況も更新していく予定です。

★インタビュー～「MEGUMI」★

－作業所に続いて送迎事業をスタート－

兵庫県腎友会西播支部は、今年4月に障害者福祉作業所のワークスペース「恵」を立ち上げました。腎友会の会報発送やコンピューター入力などの業務を請け負っています。ここに通うメンバーは現在8名、全員透析患者ですが、他の障害者も利用できます。姫路市に助成金を申請中(期待できそうです^-^)

その「恵」に続いて発足したのが、『姫路市障害者&難病患者・送迎支援の会「MEGUMI」』。西播支部は今年度、オーストラリアからの留学生・メラニーさん(車椅子利用)の通学送迎を行っていますが、これがきっかけで患者・障害者の送迎も始めることに。事務局は「恵」が兼ね、市の教職員組合からリフトカーを寄贈されたので、当面の課題はボランティアさんを増やすことだそうです。これまでに3人の利用申込みを受けています。

作業所と送迎事業を行っている例では、北海道の「さわやか通院介護」があります。作業所の助成金は送迎事業に充てられませんが、事務局を兼ねられるというメリットがあります。お話を伺った西播支部の岡田事務局長が『つぶやき』を寄せてくださっています。2事業を手がけるのはとても大変ですが、これからも頑張ってください。

姫路市障害者&難病患者・送迎支援の会「MEGUMI」

〒672-8048 飾磨区三宅1-192 田中興産ビル

TEL:0792-26-7555/FAX兼

“障害者の働く場がない、
じゃあ自分たちで作ってしまおう！”
その言葉から有限会社、作業所が、
そして送迎事業が生まれました。



行政サービスや
地域環境が整ってれば…。
当事者が始めなきゃ実現されない、
これが現実かしら。



★ 『つばやきコーナー』 ★

岡田 隆 おかだ たかし（腎友会、姫路市難病連／役員）

姫路市障害者&難病患者・送迎支援の会「MEGUMI」が9月1日(過ぎてしまいました…すみません)に発足する予定です。

4月1日より開設しています障害者福祉作業所「恵」に事務局を置き、軽自動車のリフト車1台での細々とした出発ですが、透析患者を含めた難病患者だけでなく、車椅子の団体ともジョイントし、支援していくつもりです。

実際やりだすといろいろな問題が出てくると思いますが、その時には皆さんにアドバイスしていただきたいので、よろしく願いいたします。

伊藤 一 いたう はじめ（NPO法人 ふれあい大津／送迎ボランティア）

「おはようございます」。送迎の日の一日は始まります。今日も元気な姿を見せて下さった。「ホッ」とする一瞬です。

「こんな歳まで生きていられるとは思わなかった」透析を10数年も続けている私と同年代の方々の声を背中に受けて、ひたすらハンドルを握っています。

正直言って透析の大変さ、ご苦労は、健康に過ごした私にとって思いもよらない事でした。知らなさ過ぎたこと、色々教えてもらっている今日この頃です。胃潰瘍で入院・手術をした事しかない私ですが、皆さんの長い間の療養に較べれば、些細な事としか思えません。

私に出来る僅かなお手伝い、少しでも長く続けられたらと日夜願っています。

竹井 領吉 たけい りょうきち (ボランティアローズ会/患者会役員)

わがローズ会も平成10年11月2日に発足いたしましたので早いもので、9か月が経過いたしました。思い返しますと、高齢者、乗り物に乗るのが困難な方々、交通の不便な方、“高齢で年金で生活されている方でも生命には代えられず、貯えが目減りしながらタクシー代金を1か月10万円も使われて通院されている方”“家族内でごたごたしながら通院されておられる方”と様々な方ばかりでした。その方達と話をいたしましたところ、病院がするのが当たり前と言われる方も多くありましたが、話を重ねる度に私達自身も出来る協力はさせていただきますので、ぜひ(送迎を)お願いしたいということになり、申込みも20数名でしたが送迎を始めて9か月が経過しました現在、37名という人数に加え福山駅からの通院の方は17名送迎しています。

今現在、私の耳に入っていることで、口べたな方も心では“感謝しています”“助かっています”ということを知ると、色々と苦労もありましたが、段々と皆さんの気持ちや患者として分かり合え、早い人と遅い方とは1時間(送迎車を)待たれる方もありますが、気持ち良く待って一緒に、しんどい時は声を掛け合いながら通院されておられます。

朝は皆さん元気に来られますが、後も変わらないということを知りますと安心いたします。利用されておられる方で「お金これだけでいいのですか」「もう少し出します」と言われる方もおられます。自分が作られた野菜を持ってきて下さる方もおられます。みんな仲良く楽しく送迎出来ることを思っております。

それから高齢者の方で一人暮らしの方の介護も考えなければいけないと思っております。それには資金がいりますので色々と考えております毎日です。



病院から寄贈されたワゴン車(2台)で巡回送迎しています

★ 知りたい！聞きたい！ボランティアさん募集のコツ ★

－スタート時50人!? ステップ福岡の場合－

“ボランティアさんが足りない”、ボランティア団体共通の悩みではないでしょうか。ところが、9月26日に発足した福岡市の「ステップ福岡」では、発足時に50人のボランティアさんが登録済みでした。

<こんなふうになりました>

マスコミの
影響力はスゴイ!

	市賢友会会員にボランティア募集	応募人数累計
7/16	市政記者会でレクチャー、5社が出席	↓
20	「西日本新聞」地域面にボランティア募集含む記事掲載 (5 × 26cm)	10名
28	「毎日新聞」地域面にボランティア募集含む記事掲載 (12 × 16cm)	20名
31	「リビング福岡」読者からの情報ページに掲載 (2.5 × 8cm)	30名
8/2	「日経新聞」の夕刊にボランティア募集含む記事掲載 (18 × 13cm)	
7	「読売新聞」地域面にボランティア募集含む記事掲載 (10 × 15cm)	
10	社協ボランティアセンターの機関紙に募集記事(B4 × 1/4)掲載※	
8月上旬	市内の公民館143ヵ所に掲示	44名
15	「市政だより」のお知らせに募集広告掲載 (1.3 × 5cm)	
9/26現在	応募問合せが68名、うち50名がボランティア登録済み	

※は社協ボランティアセンターに登録しているボラ1200人へ送付しています

北九州市の「さわやか」もテレビや新聞で紹介され、ボランティアが集まったという経過があります。ボランティアが集まるには、「自治体や社協がボランティア育成に積極的」「地域内に同種のボランティア団体が少ない」「市民活動が盛んな地域」など土壌の問題もありますが、手法の一つとして参考になるのではないのでしょうか。

* * * * *

◆長崎県賢協が来年4月に向けて準備中。長崎新聞に記事が掲載されました(別紙)。

◆『つぶやきコーナー』に原稿を寄せて下さったみなさま、ありがとうございます。井戸端がだんだん賑やかになってきました(^o^)。 「いどばた」では、お悩みや苦勞話も募集中、利用者の方の声もお待ちしています。みんなで考えてみたい疑問・難問がありましたら、どしどしお寄せください。

◆「ステップ福岡」は9/26に発足総会と第1回ボランティア講習会を行いました。ボランティア用の「手引書」を全団体分送っていただきましたので同封します。